

第2A分科会 岐阜地区 岐阜市小学校教頭会「子どもの発達に関する課題」 回答者 213名

### 質問

医療機関とのジョイントシートは効率が良いですが、その方法に協力いただけない医師もいるかと思います。どのように、協力を依頼しましたか？(可茂地区 小学校)

支援体制の整え方や、岐阜市教頭会のこれまでの歩みを知りたいです。(西濃地区 小学校)

誰もが自分事としてとらえる視点は何かを教えてください。(西濃地区 中学校)

「いじめ対策監」は、どのような役職の人が行い、どんな勤務・役割をしているのか？(東濃地区 中学校)

ウィスク検査以外にも、様々な検査があると聞きます。ウィスクは手間や時間のかかるテストだと伺っています。ウィスク以外のテストについて、もしご活用されていれば学びたいです。(東濃地区 中学校)

WISCの研修は、講師として心理士などを呼ばれたのでしょうか。(東濃地区 中学校)

児童・生徒はどのような医療機関や外部組織に相談しているのか？(可茂地区 小学校)

①の職員研修について。このような研修をしてくださる講師はどこから来ていただいていますか？(西濃地区 小学校)

教頭として働きかけることが増え、負担がかなり増えたのではないか。児童生徒の成長を思えば、業務としては当然のことと考えるが、実際どうだったのかを知りたいと感じました。(飛騨地区 小学校)

教頭がファシリテーターとしての役割を全うするための専門性を高めるための研修は実施していますか。(西濃地区 中学校)

医療機関とつながるジョイントシートは、医療機関にかかっている全ての子が利用できるのでしょうか。医師の協力を得るために事前にどのような働きかけをなされたのか教えてください。(西濃地区 小学校)

### 意見・感想

特別に支援を必要とする児童への組織的な対応方法の具体が学べて有意義でした。(西濃地区 小学校)

様々な個性のある子供たちに個別の対応を専門的な知見のもと考えていくことの重要性を改めて考えることができました。(岐阜地区 中学校)

校内研修で「WISCって何」と取り扱っていることが新鮮でした。若い先生方にとっては、そもそもそこから教えてやらなければいけないあと反省しました。本校でも特別支援コーディネーターや外部機関と連携をとってやってみたいと感じました。専門性を高める場の設定がとても参考になりました。(西濃地区 中学校)

子どもの発達については、特別な配慮を必要とする場合だけでなく、どの子においても一人一人異なる問題なので、そのことについて教職員で共有し、学んでいかなければならないと痛感している。この発表を聴いて、改めて感じた。今後自校でも丁寧に体制づくりを継続していきたい。(岐阜地区 小学校)

通常学級にも支援を要する児童生徒は多い。特別支援コーディネーターや担当職員の授業を参観したり、懇談をしたりし、どの職員も個に応じた指導をできるようさらなる学びが欠かせないと感じた。(西濃地区 中学校)

教頭が主体的に先生方や外部機関とのつながりをコーディネートし、目的を明確に必要な会議を設定してファシリテーターになって活動することの大切さを学びました。(岐阜地区 中学校)

特別な支援を必要とする子どもが年々増加し、それに当たる特別支援コーディネーターや教頭の専門性が求められていることを実感しています。岐阜市が取り組んで見える研修の必要性を強く感じました。(美濃地区 小学校)

教頭の役割の大きさを改めて感じた。教頭が学校経営の軸となっていることが必要だと感じた。(飛騨地区 小学校)

中学校の立場から小学校の取り組みがどのようになされているかが理解できて良かった(岐阜地区 中学校)

特別支援教育について理解を深め、学校として取り組んでいくことは非常に重要だと感じます。教頭の役割を明確にして、組織として取り組むことが重要だと学び、参考になりました。(岐阜地区 小学校)

保護者との懇談において、目標設定型三者懇談を行なっていること。それぞれの懇談に意味合いを持たせることで、子どもの思いを大切にされた支援を、継続的に、そして、保護者と学校とで同じ方向を向いて行える良さがあると感じました。(岐阜地区 中学校)

担任が抱え込むことが無いように、併せて学校が抱え込むことの無いようにする必要があると考えました。職員一人一人に専門性をつけることも大切ですが、現実的に難しいので専門性の高い機関との繋がりが、人的にも時間的にも効果が期待できると感じました。(東濃地区 小学校)

今後、特別な支援を要する子ども数は増加していくことを考えると、検査について知ることやチームで対応することの大切さがよくわかりました。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

特別な児童への配慮を多く抱えているのはどこみ同じで教頭として何ができるのかを考えることができたし、改めて組織で役割分担を見直すことの必要性を感じました。(美濃地区 小学校)

今後の課題について共感しました。教員ひとりひとりが自分事としてとらえ、資質能力を高めること、限られた人員の専門性や特性を最大限に生かす体制づくりの必要性。どの学校も同じですね。(飛騨地区 小学校)

特別な配慮を要する児童への支援については、どの学校でも課題を抱えていると思います。勤務校においても同様です。岐阜市教頭会の発表では、教頭自身が核となり、組織的に対応できる体制をつくったり、それを進めたりしていらっしゃいました。私も、特支コを担っています。児童により適切な支援ができるように、ご実践を参考にすすめていきたいと思っています。本当に多忙な日々の中、自分自身の働き方にも目を向けねばならないので、そのせめぎ合いですが。(西濃地区 小学校)

WISCについて、用語の解説や検査結果の見方、実際の検査問題など習ってやってみたい。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童に対する支援体制づくりについては課題を感じていたため発表が参考になった。様々な実践を行い体制づくりに努めているが、発表を聞いて、ケース会の後をどのように発展させるかも重要だと感じた。事実、児童の良さを可視化し共有することでより具体的な支援と体制が考えられるのではないかと感じた。教頭の果たす役割についても再考したい。(西濃地区 小学校)

本校は、職員厚生との関係で、教頭が特支COを兼務しています。岐阜市が取り組まれていることは実践しているつもりですが、懇談会を3部構成にして、意図的に進めることはおもしろい試みだと思い、提案してみようと思いました。

本校では、町が委託契約している外部機関に、WISC等の検査や家庭支援を行ってもらっています。検査結果も、全職員が分かるように、資料としていただけるため、全職員がWISCに精通する必要を感じません。研修や会議も精選の必要があるため、取捨選択は永遠の課題だと思います。(可茂地区 小学校)

専門性の有無に関わらず、すべての教員が特別な支援を必要としている児童の指導に携わらなければならない時代。そのような意識を管理職として全職員に持たせたい。また、専門性を高められる機会を作らなければならないと改めて感じた。OJT。勤務しながら専門性を高める。(岐阜地区 中学校)

支援を要する児童への配慮や職員研修など教頭として特別支援コーディネーターとの連携は大切である。と思う。(西濃地区 小学校)

今後の学校教育に関わる特別支援教育の重要性(可茂地区 小学校)

小学校で三者懇談をするという意図は参考になりました。(可茂地区 小学校)

特別な配慮を要する児童への体制づくりにはまず、人を育てることが大切だと私も考えます。そのため、教職員のスキルアップを図ることを願った取組は、自校でも早速働きかけていきたいと思った。また、外部や保護者との連携については、教頭としての立場から体制づくりには動くことは大変意義のあることだと思う。そして、そのことが教頭だけで終わらず、特別支援教育コーディネーターや教職員へと誰もがつながることができるものにしていくことが大切だと感じている。

生き抜く力の育成に関わり、三者面談を行っていることは、児童にも自分の生き方について考える機会となり、大切なことだと思う。「しなやかに生活」の具現の一つとして参考になった。(西濃地区 小学校)

今後の学校教育に関する特別支援教育の重要性(可茂地区 小学校)

発達障害については、外部機関との連携が重要であると感じました。(岐阜地区 中学校)

教頭が特別支援教育コーディネーターとなっているが、当たり前のように WISC を活用してきたが、若手教員等には、WISC についての用語の見方や結果を基にした児童の困り感の把握の仕方を研修することが大切であったと反省した。取り入れていきたいと思う。(西濃地区 小学校)

特別な支援が必要な児童は本校にもいるので、授業参観をして困り感や今後の指導の方向をチームで共有しながら指導していきたいと思いました。また、外部機関と連携したり、組織的に対応したりすることができるよう、校内の役割分担を明らかにして全職員で取り組んでいきたいと思いました。子ども自身が目標を設定して保護者と教員が共有するという取組がとても興味深かったです。(岐阜地区 小学校)

学校業務が多忙化する中、とても素晴らしい実践を数多くされており、素晴らしいと感じました。WISC研修については、ぜひ自校でも実施していきたいと思いました。担任が一人で抱え込まない配慮を必ずしていかなければならないと感じました。「ジョイントシート」の実践がとてもよいと感じたので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育に関する専門性の向上は、自らの課題だと思っています。指導内容や児童の実態について把握し、共通理解して支援にあたる事は大切です。しかし、ここまでの体制をつくられたことは、容易なことではなかったと思います。自校では、まず、特別な配慮を要する児童の困り感を理解することから始めなければならないと思いました。また、どの子にも困り感があり、すべての子どもたちに向き合うのは自分たち一人一人であるという自覚をもつことから始めなければならないとも思いました。支援体制づくりは、地域全体で共通行動をとっていくことが重要だと思います。その土台がある中での素晴らしいご実践を教えていただき、ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童に対してより良い支援を行うために、教頭として校内外連携のコーディネートが大変重要だと改めて考えさせられました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

職員研修の充実は重要だと再確認しました。本校では、小学校免許のみの教員が多数おり、6年生3学級全て小学校免許のみの学級担任です。また、中学校勤務を経験したことのない学級担任は15学級中12人と進路・進学指導、中学校での特別支援学級入級指導など研修を開く必要があります。若い先生が多いことは活気にもつながりますが、経験知の少なさをどのように埋めていくのが喫緊の課題です。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童に対する支援について、特別支援コーディネーターが核となるが、保護者、担任支援体制、外部との連携がなされており、大変参考になる実践だと感じました。(西濃地区 小学校)

専門的な立場からの助言や WISC の研修を通して、教職員が児童理解をすることにつながるとあらためて学びました。教頭が組織で動く中心となり、リーダーシップを発揮することが、子どものために向き合う職員の安心感につながると感じました。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童が増えつつある今日、特別支援教育に関する専門性の向上を図る場の設定についてや校内・校外連携に向けたコーディネートについて知ることができ、勉強になりました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

校内組織として、特別支援コーディネーターや教育相談担当などの校務分掌が位置付けられているが、教頭がファシリテーターとしてリードしたり調整を図ったりすることは、組織的な動きを作り出す上で大切だと感じた。(西濃地区 小学校)

特別支援教育は、どの教員にとっても必須の資質となっている現在、職員が正しく特別支援教育を理解して教育的ニーズに応じた合理的配慮を進めていく必要が学校にあることを踏まえ、教頭がリーダーとなって資質向上研修を実施されていることはすばらしいと思いました。市教委が作成したジョイントシートは医療との連携を深めるアイテムとなっていると感じました。(岐阜地区 小学校)

ブロックごとに分かれて実践を積み上げ、学び合えることが素晴らしい。(西濃地区 中学校)

4教頭としての働きかけ②の外部機関・保護者との連携・調整について

教頭としてこの外部機関との連携については欠かせない。直接児童生徒関わることができなくても、相談機関への連携を図ることが、担任への大きなサポートとなります。特別支援教育コーディネーターと協力して、外部機関との連携を今後も進めていきたいと思います。

(東濃地区 小学校)

教頭の役割を見直すことができました。(岐阜地区 中学校)

特別支援教に関わる教頭のリーダーシップがいいですね(東濃地区 小学校)

本校も同様の課題を抱えている。学校としての支援、保護者の協力、関係機関の支援等、一人一人の特性にあわせて役割分担して進めている。まだまだ特別支援に関わる教員のスキルの向上が課題である。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒は、年々多くなり、必要な支援も多種多様であるため、学校だけでは対応しきれない。だからこそ、保護者との合意形成を図りながらも、外部機関へ支援協力を求めたり連携を図ったりすることが益々重要であることは、日頃から大切にしているつもりである。しかし、自分自身、日々の他の業務にも追われて、十分な成果をあげているとは思えない。

だからこそ、教頭と特別支援コーディネーターとのタッグを強化してあたらなといけなと感じました。また、「ジョイントシート(医療との連携の記録)」は、とても有効的であると感じました。(東濃地区 中学校)

教頭としての働きかけを参考にしたいと思った(西濃地区 小学校)

「WISC」について、用語の解説や検査結果の見方等について研修を位置付けられ、検査結果をもとに日頃の支援に生かされているというお話を聞いて、ぜひ、本校でも職員研修を取り入れていきたいと思いました。(西濃地区 小学校)

検査者の人材不足などによる検査機能の脆弱さで、お困りの自治体も多いと聞いています。検査が必要な児童生徒に、早期に対応できる体制づくりが必要だと感じました。(東濃地区 中学校)

職員研修では、職員が「自分事として捉えることができるように、また、すぐに実践につながるように」配慮していきたい。(西濃地区 小学校)

とても素敵な御実践だと感じました。特別支援コーディネーターがもっともっと前面に出ていくことが大切だと感じます。教頭の負担が大きくなりすぎるのではないかと感じました。あくまでも助言していく立場などではどうでしょうか。

個別の支援計画などが本当に役立つものとして活用され、自己肯定感が向上してると感じました。(可茂地区 中学校)

特性をもった児童が多いのは、本校も同じです。特別支援コーディネーターと一緒にあって、基本的なことから学んでいく必要性を感じました。本校も若手職員が多いです。今後、重要になっていく力として、学んでいけるように、より一層、特別支援コーディネーターと連携していきたいです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

外部機関と綿密な連携が図られており、支援を要する子供へのケアがしっかりと施されている点が素晴らしいと思った。岐阜市内で機関が充実しており羨ましく思ったが、我々地方とは比較にならないほど対象者が多いことから、機能させることや支援体制の構築の難しさもあることが理解できた。中央・地方関係なく、支援を要する子どもへのケアが必要である点は共通している課題だと強く感じた。(美濃地区 小学校)

教頭が中心となってケース会を行っていることが、学校として組織的に機能していく上で大切であることを再確認できました。支援が必要な児童生徒への対応を考えていく上で、すべての情報を取りまとめていくことで、それぞれの立場の先生が担当する分野で合理的に機能していくのだと思いました。(西濃地区 小学校)

職員研修で「WISC」について学ばれたと聞き、本校にも取り入れたいと思いました。保護者に受けるようにおすめはしていますが、実際にどのような検査をするかは知らない職員が多いですし、検査結果を見せてもらい、説明を受けてもいまいピンときません。よって自らが問題を解いてみることで、数値の見方を知ることが必要だと感じました。(西濃地区 小学校)

支援が必要な児童生徒に対して、教頭が中心となってケース会を行い、それぞれの立場からの情報を集約することはとても大切なことだと思いました。また、生徒指導や特別支援、担任がそれぞれの立場から必要な支援や保護者、外部機関との連携を機能的に行うためにも、合理的だと思いました。(西濃地区 小学校)

いろんな子どもが増えているので、どの教員も対応を学んでいくことの必要性を強く感じました。研究ということではなく、研修として教頭会で学び合う機会が必要ではないかと感じました。(ほかの分科会にも言えることですが・・・)(可茂地区 中学校)

特別な配慮を有する児童一人一人に対して必要な支援をすることは重要だが、特別支援の知識を身につけた上で、他機関との連携もしながら進めるべきだと思った。(東濃地区 小学校)

本校でも特別な配慮を要する子が増えています。しかし職員がそれに追いついていないこともあります。だからこそ、職員研修や連携を教頭がコーディネートしないとイケません。とても参考になりました。今後の支援体制を充実させるように努めていきたいと思います。(岐阜地区 小学校)

教頭は特別支援教育の副コーディネーターとして自覚し、校務分掌に位置づけられていなくとも、サポートしていくことが大切であることを再確認しました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

校内外において支援体制をつくっていること、そこで教頭が俯瞰的に全体を捉え、組織を動かしていくことが大切であること等がよく分かりました。特に WISC についての職員研修では、まずは職員が知ることが必要だと感じました。本校でも来年度の研修計画に入れていくことを検討したいと思いました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

学校以外の支援の窓口を数多く持って展望を持って支援を進めることのできる助言をしていくことが大切だと感じました(岐阜地区 中学校)

特別な支援を要する児童だけでなく、保護者も含めた支援が求められており、学校内の組織づくり、外部との連携は、急務であると感じています。(岐阜地区 小学校)

大変、興味深く聞かせていただきました。本校にも支援児童が複数います。そこで、医療につなげるときに、病院の先生と、情報をうまく共有するためシートのはなしは、興味深いかものがありますね。(東濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童が増えつつある現代の学校現場で、どのように職員の資質向上を図るのか、また校内校外連携に向けてのコーディネートの仕方など、勉強になりました。特に、目標設定型三者懇談会というのが、主体的な姿、自己肯定感の高まりにつながるようで、とても興味深く感じました。(東濃地区 小学校)

取り組んだことの具体的な意味や目的、成果がはっきりしており、大変参考になりました。(西濃地区 小学校)

どの子どもが十分に力を発揮し、成長することができるように、学校全体で見届け、また外部の専門機関と連携することの大切さをあらためて感じました。そして、教頭は、その環境をしっかりとつくり、つなぎ役としてコーディネートしていくことが必要であることを学びました。(岐阜地区 小学校)

wisc の見方を全職員で研修すること胃はとても大切だし、ぜひ位置付けていきたいと思った。(西濃地区 小学校)

各校の特色ある取組事例から、特別な配慮が必要な生徒への対応について、参考になることばかりで、大変勉強になりました。誰 1 人取り残さない教育実践、ファシリテーターとしての教頭の役割、私も共有・自覚して教頭としての業務に取り組みたいです。(岐阜地区 中学校)

特別に配慮を必要とする子どもたちが通常学級に2～3名いることで、支援に困っている担任の状況を把握するためにも、教頭として全学級の日常の観察の大切さを感じた。子どもの姿を、企画委員会で話題にして、ケース会等につなぐ力をつけていきたいと、改めて感じました。また、特支コーディネーターや特別支援学級担任の専門性を生かした研修及び特支担任と通常学級担任の日常の対話を活性化できるよう、コーディネートしていきたい。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

医療と学校をつなぐ「シート」これはとても有効だと感じました。本校も医療とさまざまな形で繋がっています。(東濃地区 小学校)

全職員が支援を必要とする児童に寄り添い、最適な環境をつくれるように職員のスキルアップと連携が必要であることを改めて実感しました(岐阜地区 小学校)

校内の役割分担を明確にしているところを参考にしていきたいと思いました。(東濃地区 中学校)

ケース会を開くことはとても大事。外部機関との調整で苦労しますが、組織でいろんなかたに助けをもらい動いていくことは必要です。未来ある児童・生徒の希望を奪わないためにも連携が必要ですね。(岐阜地区 小学校)

当たり前のようにウイスクを話題にしてケース会を開いていましたが、若い先生にウイスクの見方を知ってもらう研修をしていなかったことに気付きました。また、懇談をあえて3者懇談で目標を意識した生き方づくりの懇談が勉強になりました。(美濃地区 小学校)

外部機関と連携することの重要性を再確認できた。(可茂地区 中学校)

発達に何らかの問題を抱える児童生徒が増加するなか、私たち教職員が発達検査について知ることに有効性を感じました。かつて児童相談所に勤務した際、『WISC』の検査内容や結果の見方について学ぶことで、より細やかなアセスメント・分析につながると感じました。私も、学校職員がこうした研修を繰り返すことが大切であると考えます。本校でも関係機関と連携する中で、研鑽を積んでいきたいです。(東濃地区 中学校)

「WISCって何？」という職員研修の実践に強く興味をもった(飛騨地区 小学校)

特別な支援が必要なお子さんに対する対応は喫緊の課題だと考えます。生徒の特性に寄り添い、支援が必要な生徒も学校生活が楽しくなるよう様々な手立てがうたれており、参考になりました。特別な支援が必要なお子さんに対する対応は、他のお子さんへも効果的な対応になると感じます。また、特別な支援が必要なお子さんへ、職員が適切に対応することができれば、それを見て仲間へのかかわり方を周りのお子さんでも学ぶことができると考えるので、特別な支援を必要とするお子さんへの適切な対応について学ぶことは大切だと感じました。(可茂地区 中学校)

継続的な取組が力をつけるもとだということを強く感じました。(岐阜地区 小学校)

複数校が連携して校内体制や連携調整体制を整えているところが参考になった。(飛騨地区 小学校)

WISCの結果の見方や用語、結果の活用の仕方などは本校職員も私自身も分かったようなつもりになっているが、それが本当に正しいのかどうかは甚だ不安である。専門的な知識を持った人から教えていただく機会があれば、本校職員も今後の支援が必要な生徒との関わり方が変わってくると感じた。また、本校では三者懇談につながりがなく、それぞれの時期に単発になっていたため、もう一度年間を通して三者懇談で何を求めるのかを検討し、計画的に行いたいと思った。私自身も校内巡視や授業参観の機会を増やし、特別支援コーディネーターに任せきりにすることなく生徒をアセスメントできるようになりたいと思った。(東濃地区 中学校)

本校は、特別支援学級が設置されていないことと職員の配置の関係で、教頭が特別支援教育コーディネーターを兼務している。専門知識をもっている職員はいないため、下呂市の指導教諭や巡回通級の教諭と連携を取りながら、支援体制をつくっている。配慮が必要な児童、担任がどう関わっていくとよいか不安に思ったすぐにチームとして動けるような支援体制と考えているため、とても参考になった。WISCについては、外部で受けた児童の保護者の話や前任校で学んだ知識しかないため、職員に伝えることができなかつたので、外部の方の講習を位置づけるようにしたい。年に3回の通級教室在籍児童の保護者との懇談は行ってきていたが、3者で行うということを考えてことがなかつたので、「なりたい自分」自動自ら保護者の前で伝えることがは、とても

大切なことだと感じているので、これも実践にしていきたい。貴重な発表をありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

特別支援学級や通級指導教室に所属しない児童生徒においても同様な、場合によってはそれ以上に特別な配慮を要することがある。特別支援教育コーディネーターや特別支援担当職員が授業を参観し、そこからヒントを得られることができるように本校でも実施してみたい。(美濃地区 中学校)

特別支援学級の児童生徒のみならず、普通学級に在籍する児童生徒にも特別な配慮を要する児童生徒がいるので、実践から学ぶべきことが多くありました。(美濃地区 小学校)

学校課題に応じた計画的な研修を行っていききたいと学びました。また、幼小中連携の大切さについて、改めて学びました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

教頭が中心となって支援体制づくりをすることで、私自身を含め、教職員の視野を広げることができる。新たな見方や考え方を基に、教職員への指導助言をすることで、子どもの困り感の解決につなげることができると感じました。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒に向き合うために、教頭としての働きかけを、自分ももっと積極的に行いたいと感じた。(西濃地区 小学校)

発達障害のある子、グレーゾーンの子のみならず、全ての子を対象に取り組んでいかなければならないと感じました。(美濃地区 小学校)

年間の懇談ひとつひとつに、その役割を明確にしている点が大変参考になった。(岐阜地区 小学校)

特別な支援を要する児童への対応はどの学校でも急務の課題であると思います。専門性の高い教員の育成はもちろんですが、やはり外部との連携を含め、組織的に対応することが大切だと再確認しました。(可茂地区 小学校)

外部や保護者、教師が連携していくためには、教頭がファシリテートをしていくことが必要で、どのように進めていくとよいかについて学ぶことができた。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒がどの学校にもいるため、具体的な取り組みについて学ぶことができた。(岐阜地区 中学校)

本校でも、特別支援教育の経験がない職員が特別支援学級の担任を務めています。知的学級も自閉情緒学級もどちらの学級も経験がない職員です。その結果、頭ごなしに生徒をしかりつけ、本人の自己肯定感を低下させたり、保護者とのトラブルへとつながっています。また、教科担任として、特別支援学級へ入った時も同じことが言えます。まずは特別支援教育に関する専門性を向上させることは喫緊の課題であると考えます。岐阜市小学校教頭会では、よく耳にする「WISC」にかかわる研修を進めており、本校でも取り入れていきたいと考えています。また、私自身特別支援教育コーディネータを兼ねておりますが、これまで特別支援学級での担任等の経験は一切ありませんでした。私自身も研鑽を積み重ねていき、学校職員の専門性が向上するように努めていきたいです。また、小中連携の大切さを実感しております。3 小学校から、入学してくるわけですが、そのうちの 2 つの小学校から入学してくる生徒の人数は大変少なく不適応を起こしてしまうことがあります。ましてや発達障がい傾向のある生徒にとっては直さらです。少しでも安心して生活できるよう小中連携、専門機関との連携を深めていきたいです。本日はありがとうございました。(東濃地区 中学校)

関係各所との連携は学校運営に欠かせない課題であるので大変参考になった。(岐阜地区 中学校)

職員は、wisc やエールぎふなどを知っているが、その理解までは至っていないことに同感しました。それらを繋ぐ働きかけを行うことで子供の支援体制を整えたいと思いました。(岐阜地区 小学校)

児童が頑張るための目標設定、その姿を教師を含む大人が認め励ます機会を意図的に仕組んでいる点が素晴らしい(岐阜地区 中学校)

実践されている支援体制を自校でも参考にしたいと思います。(可茂地区 中学校)



特性を受け止め、スモールステップでの成長をつかっていけるよう、職員指導をしていきたい。(飛騨地区 中学校)

教頭が校内外のファシリテーターとして機能することで、校種間や保護者都外部機関との連携を測ることができている。それにより、組織で対応すること、子供も職員も保護者も支え合える体制になることを学んだ。(美濃地区 中学校)

特別支援教育の推進に関わって、校内の教頭の働きかけやコーディネート、ファシリテーターとしての動きが大変重要であることがよく分かった。組織で対応できるよう、様々な機会を活用したり、いろいろな方向へアンテナを張ったりしていかなくてはいけない。身近なところから、まず教頭がフットワーク軽く動くことが大切であると痛感した。(可茂地区 小学校)

本校も限られた人員の専門性や特性を最大限に活かす体制づくりは本当に必要だと思いました。ただこれ以上会議が増えるとなると、という事が心配です。(岐阜地区 中学校)

特別支援コーディネーターと共に教頭が関わる部分(飛騨地区 中学校)

職員研修でWISCの結果の見方の研修を行ったということで、初めはどういったことが分からない先生が多いと思うので、やっていくことで先生たちが保護者にWISCを勧める際に参考になると思います。(西濃地区 小学校)

心に響いた言葉は、「ファシリテーター」「連携」「調整力」です。学校が“組織”として機能するために、教頭がファシリテーターの役割を担い、リードすることの重要性を再認識しました。また、学校が抱えきれない事柄(事案)等については、外部機関の支援が受けられるように、教頭が連携・調整役になることが学校が円滑に運営される1つの要だと感じました。ついつい、教頭一人でやってしまいそうなことを、学校職員みんなで取り組むために「役割分担を明確化」し、各自がその役割を自覚するように促すことも大切だと感じました。(西濃地区 小学校)

支援を要する児童生徒への対応、保護者との共通理解の大切さ(西濃地区 中学校)

特別支援教育の充実を目指して、特別支援コードとの連携を図り、ファシリテーターとシテの役割を積極的に果たしていく重要性を学びました(東濃地区 小学校)

本校も医療機関との連携を密にすることで、本年度、大変効果を感じているところです。しかし、通院(岐阜市)の際に教頭が同席し、色々な相談をすることは、拘束時間が多くなり業務を圧迫することにもなりがちです。提示いただいたシートを参考に持続可能な方法を模索してみたいと思いました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

すぐに使える実践、自分ごととして考えたい実践をありがとうございました。自分でなんとかしなければ…ではなく、学校の組織、校外とのネットワークをより一層大切にしていきたいと思いました。自分たちが頑張っていることを後押ししてくださっている気がして安心しました。ありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

特別支援学級のみならず、個に応じた指導が求められる中で、指導の具体やチームでの支援体制について参考になりました。(岐阜地区 小学校)

教頭として、どの職員にも特別支援教育に関わる専門性の意識向上を図るよう研修や連携・調整のコーディネートをやる大切さを学ばせていただきました。(西濃地区 小学校)

教頭としての幅広い意図的な支援により、教職員一人一人の資質の向上を上げ、安心して生徒に向き合える環境を作り上げるのだと感じました。(東濃地区 中学校)

教頭が中心となって「特別支援教育力」を付けていく必要があることを切実に感じた。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育への理解と、支援の在り方は全職員が学び続ける必要がある。基本の内容から、職員間、保護者との連携、また外部とのコーディネートの在り方について整理されていた。(西濃地区 小学校)

特別支援等についての職員研修が必要だと感じました。(東濃地区 小学校)



特別な教育的配慮を必要とする児童が増える中、教頭が校内外との連携をコーディネートまたはファシリテートすることの重要性が高まっている。担任が一人で抱え込まないよう、そして、児童自身が字と肯定感を高められるような支援体制の構築が求められる。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童の支援体制について、校内で教頭としてどのように働きかけるかの視点が明確となった。取り組んでいることではあるが、今後さらに整理して取り組みたい。(東濃地区 小学校)

多治見市でも同じ研究課題で進めていますが、内容的に少し違っており、特別支援教育を軸にいろいろ手立てが打たれていることを勉強させていただきました。教職員への指導も大切だと感じました。(東濃地区 中学校)

特別な配慮を要する児童に対する支援の方法を具体的に示していただき、本校に生かせるところがたくさんありました。特にそれぞれの職員の役割を明確にする必要性を感じました。(飛騨地区 小学校)

自校でも特別な配慮を要する児童は増加傾向にあります。トラブルが起きてからの対応ではなく、教頭として自校の教職員に対して何ができるのか、ファシリテーターとしての役割の重要性について学ばせていただきました。教職員研修の充実や懇談を三者懇談にすることなど、来年度の教育課程の編成に参考にさせていただきます。(西濃地区 小学校)

保護者と学校だけでなく、外部組織や医療機関との連携が必要で有効であることは大変共感できた。(可茂地区 小学校)

特別な支援を必要とする児童は年々増加しており、それに対応する職員の若年化、経験不足も大きな課題である。そんな中で、職員全体で特別支援に関わる研修会を行うのは非常に意味あることだと思いました。言葉は聞いたことがあっても、意味のわからないことはたくさんあるので、特支コーディネーターと相談し、広く学べる場を考えていきたいと思います。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

効果的な校内研修の位置付け方を今後も考えていきたいと感じました。(岐阜地区 小学校)

子どもの発達に関する課題で、WISC をうけたいと申しでてくる保護者がとても増えてきた。WISC についての用語・検査結果の見方について、特別支援コーディネーターだけでなく、皆で研修をしていることがよい。我が校にもぜひ取り入れたい。(可茂地区 小学校)

WISC の職員研修は、前特支教育主幹教諭が勤務している今だからこそ、ぜひ本校でも行いたいと思った。(西濃地区 小学校)

研修の内容で、WISC の読み取りやその生かし方などをしておられることを知り、職員の特別支援教育への知識や個の特性を理解した上での関わり方など良い学びの機会となるため取り入れていきたいと思いました。(西濃地区 小学校)

現在、どの学校でも特別な支援を要する児童生徒が増えていきます。個に応じた支援をしていくために、学校内で何が必要か、教頭としてどんなことを行っていくとよいか、動画を視聴しながら考えることができました。特に、今後は、医療など外部との連携も必要不可欠になってくると思います。その際、貴重な機会をより価値あるものにしていくために、シートを活用し、知りたい情報や手立てを得られるようにしていく大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

特別な支援を要するお子さんが増えるなか、校内での学びの場の設定と、学校外の!!の活用について学びました。(飛騨地区 中学校)

「WISC」はよく使われる検査ですが、一つ一つの項目や、検査結果の見方等を具体的に研修したことはなかったと振り返ることができました。自分が研修したいと感じたほどです。「当たり前」と思っていることでも実は経験から感覚として掴んだこともあります。きちんとした正しい知識や知見として研修することは大切だと学びました。(東濃地区 小学校)

生徒一人一人の実態に応じた連携の在り方の大切さを学んだ(岐阜地区 中学校)

子ども自身が思い描く自分の姿、それに向けての課題、取り組む姿勢を大事にする視点に共感しました。学年、年齢に合わせて、自己理解を促していくことが大切だと思います。(美濃地区 小学校)

特別な支援が必要な子が増えている現状の中、「WISC」検査を受けてくる児童も多くいるため、改めて検査についての基礎的な知識を正しく学べる機会があるとよいと思っておりました。職員研修を実施されたという実践が参考になりました。自校でも実施してみたいです。(美濃地区 小学校)

日々実践ですが、担任だけでなく、管理職、フリーを含め、配慮を必要とする児童は多く、対応にはかなり苦慮しています。明確な解があるとは言えませんが、事例を参考にしながら進めることです。コーディネートできる立場として教頭の役割は重要だと考えます。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮が必要な子供に対する支援については、組織で対応することが大切だということが改めて感じられました。その中心的な役割を教頭がしっかり担うことでうまく機能することもよく分かりました。(岐阜地区 小学校)

どの学校にも、特別な配慮が必要な児童生徒はいます。学校がチームとして対応するために参考となる、とても素晴らしい発表でした。特に、特別支援コーディネーターを中心とした取組、外部の専門機関や保護者との連携など、具体的で大変分かりやすかったです。また、目標設定型三者懇談は、児童生徒が自分ごととして考えることができる有効な手段だと思います。私の学校でもよりよい支援体制を構築できるよう、努めてまいります。(岐阜地区 小学校)

学校全体のことを把握しながら動ける教頭が、ケース会等でファシリテーターの役割を果たすことが、職員への負担軽減・業務の効果向上につながり、それが子どもたちのよりよい支援につながっていくということを改めて感じる事ができました。ありがとうございました。(可茂地区 中学校)

これまで自校で行ってきた特別な配慮を要する児童への対応にプラスして新たな対応を学ぶことができました。(可茂地区 小学校)

特別支援教育は、ますます重要になってきたと思います。特別支援教育の専門性の向上を図る場の設定が、養老町でも必要だと勉強させていただきました。WISC をこの支援に生かす方法は、本稿でも行う必要があります。また、授業参観に基づくアセスメントは、担任を1人にしないで学校組織で取り組むために必要です。さらに、ケース会議での教頭の役割は重要であり、教頭が調整・進行をしていく必要があります。目標設定の三者懇談を計画的に位置づけることも、自己肯定感を高めるのに有効です。多くを学ばせていただき、ぜひ、養老町で生かしていきたいです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

組織的な連携・調整を構築することで、一人ひとりの児童が大切にされていると感じました。(可茂地区 小学校)

ここ数年で増えてきている特別な配慮が必要な児童生徒への支援体制づくりの大切さが再確認でき、教頭としての働きかけ等で参考になることが多くとても勉強になった。本校でも特別支援教育に関する専門性の向上を図る場として、夏休みに自校の特別支援教育に詳しい先生を講師として職員研修の場を設けたり、要請訪問を活用して特別支援教育担当の指導主事の先生からお話を聞いたりした。

限られた人員の専門性や特性を最大限に活かす体制づくりは本当に大事であり、私も自校の体制を見直し、よりよい体制づくりを進めていきたいと感じた。(美濃地区 中学校)

特別な支援を要する生徒は、増えているように感じます。それらを支援する方法も個人によって違いがあり、その対応には労力を要します。さらに、専門的な知識も必要となりますので、勉強も欠かせません。教頭として、職員研修を実施することや、外部機関と連携するためのコーディネートは、大切だと感じています。今後の見据えての三者懇談の実施や、ケース会での進め方等、参考にさせていただきます。有難うございました。(飛騨地区 中学校)

教頭として、学校の内部はもちろん、外部機関との連携を深め、コーディネートしていくことが大切だとあらためて思いました。(岐阜地区 小学校)

発表内容にとっても共感できた。専門性を向上させるために用語について知るという研修を取り入れてみたいと思った。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童に対する児童支援体制の発表でしたが、学校というチーム体制の在り方について再度確認することができました。〇〇コーディネーターと色々な役職ができてきましたが、学校全体を取り仕切るコーディネーターは教頭なんだと職の重みも再認識させられました。(飛騨地区 小学校)

生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成について、若い教職員の多い現任校では、中学校だけでなくその先を見据えた取組が必要であることを職員会の折に話しました。(東濃地区 小学校)

生徒の思いを丁寧に汲み取り適切に懇談に生かすこと(岐阜地区 小学校)

特別支援に関わる児童が多くなり、特別支援コーディネーターを教頭が行うところもある。具体的な内容を教職員の研修で身に付け、先生方がすぐ活かせる内容になっているのがよいと思う。(西濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童は通常学級にも多数いて、日々の指導は難しいものになっている。そのような状況を打開する教頭会の取組であったと感じた。職員のニーズに適した職員研修、授業参観に基づく支援の他に、教頭としての働きかけを整理して実践されたところに価値があると思った。「連携・調整」とよく言われるが、その視点が明らかになり、関係者を巻き込みながら多くの支援を行うことができたことは素晴らしいと感じた。ぜひ、参考にしたい。(飛騨地区 小学校)

各学級に数名は特別な配慮を要する児童がおり、担任の先生は学級に中にどのように位置づけるかによって学級経営の左右されることがあると考えられる。しかし、担任が一人ひとりの児童と向き合っていくために、学校組織を活用すること、専門的な知識をつけることが大切だと考える。そのために、教頭として、校内郊外のコーディネートをしたり、必要な研修会を行なっていくことが担任の学級経営力につながり、一人一人を大切に育てる教育につながると感じた。(西濃地区 小学校)

医療機関との連携のための「ジョイントシート」が大変有効だと思いました。自分の学校や市町でも活用できないか考えたいと思いました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

他の発表聞いてもっとできることがたくさんあると感じました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育に関わる校内研修のあり方が本当に参考になりました。自校でも取り入れていきたいです。(岐阜地区 小学校)

通常学級で支援を要する子どもの割合が8.8%であり、11人に1人で増加傾向であり、通級、特別支援学級の増加傾向にあり、本校においても増加傾向がみられ、その対応、支援の在り方は急務であると感じている。校内外・外部関係機関とつなぐファシリテーターの在り方、ジョイントシートの活用、目標設定型の三者懇談会の在り方などは、即実践できるポイントが多く、勉強になりました。特別な配慮を要する児童支援に関わる教員研修やチームで困り間を見立てて指導援助にあたる体制づくりなど、次年度に向けて学校組織・教育課程の在り方を考えていこうと思いました。貴重な実践ありがとうございました。(可茂地区 中学校)

特別な配慮を要する児童に対する支援体制について学ぶことができました。(岐阜地区 小学校)

岐阜市の実践を聞き、それぞれ困ってみえることに懸命になって取り組んでみえる姿に感銘を受け、励まされました。(東濃地区 中学校)

本校も教頭が特別支援コーディネーターをしています。職員に共通理解のもと動いていくには研修はやはり必要であると感じました。通級指導教室との連携も日々悩みながら行っています。学級担任と担当教員が連携をもっと連携していけるようにコーディネートしていきたいと思いました。(可茂地区 中学校)

各関係機関との連携や調整について、教頭の役割や働きかけについて学ぶことができました。今後、本市においても発達支援センター(福祉課)の設置が進められているため、その連携の在り方を生かすとともに、教職員のスキルアップにもつなげるようにしたい。(可茂地区 小学校)

本校のように、特別支援教育コーディネーターが担任と兼任であることは、いろいろな面で負担がかかっていると感じます。そのためにも、校内で支援体制を構築することが必要であると感じます。本校では、スタートカリキュラムに就学前支援情報を活用する体制づくりをしています。今回の発表を参考にさせていただきます。(岐阜地区 小学校)

個別の支援が必要な児童生徒をより多くの目で見、ケース会等でより多くの職員が共有することの大切さを改めて感じました。(岐阜地区 中学校)

目標設定型三者懇談が心に残った。児童生徒の成長には、本人の意志と努力、それを支える大人の支援、認め励ましが必要。年3回の懇談にねらいをもたせ、その懇談を通じて目標を設定したり、成長を確かめ、次の成長につなげたりする、そのサイクルに共感した。(岐阜地区 小学校)

組織立った支援体制の重要さ。(岐阜地区 小学校)

岐阜市の実践内容は、私自身、教職大学院在学中に学んだ内容であり、大変共感できる部分が多数あった。特に、ケース検討会議においてコーディネーターやファシリテーターの存在次第で、困り感の集約と本人や保護者の願いを踏まえた支援体制の在り方や解決策を効率的に導き出すことができることはとても理解できる。(西濃地区 中学校)

我が校も若手の職員が多く、特別支援教育については、丁寧な研修が必要です。教頭が中心となりどのような研修や助言を行うとよいのか、とても参考になりました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

できる限りの配慮と連携に努めています。幼保小中の支援体制の連携には、施設・環境・職員・発達段階など様々な問題があるので、実際どうするとよいのか悩みます。(東濃地区 小学校)

それぞれの分掌の教師が同じ方向性を持ちつつ、自分の役割を果たし、それを教頭が見届け価値づけることの大切さを学びました。(岐阜地区 小学校)

校内での、特別支援教育に関する練習、「ジョイントシート」について、本校でも取り入れてみたいと思いました。(可茂地区 小学校)

職員の専門性向上や校内外との連携のために、教頭としてやらなければならないことが明確にされており、学ぶことが多くあった。(岐阜地区 中学校)

特別配慮を要する児童への取り組みについて、特別支援 Co を中心として、組織で対応している実践は、本当に大切なことだと感じた。また、特別支援学級の担任以外も対応の仕方や検査結果の見方など、知っておくべきことはたくさんあるので、職員研修は有効だと思った。(岐阜地区 小学校)

「子どもたちだけでなく、私たち教職員も、変化への対応力を付けていかなければならない。」というお考えに同感です。学校や職員の実態に応じ、タイムリーな職員研修のアレンジメント、よりよい行内体制をつくるための校内・校外連携に向けたコーディネート等、教頭の役割として進めていきたいと思いました。(美濃地区 中学校)

特別支援教育に関して、校内で教職員のスキルアップを図る研修の場を設けたり、校外や外部機関との連携・調整の在り方を再考したり、具体的に提案していただき、本校の実態を想起しながら多くを学ばせていただいた。(岐阜地区 中学校)

特別支援教育についての専門的な知識や指導力は、若手のみならず、ミドルもベテランも、どの教員にとっても必須だと感じます。そのためにも、教頭がファシリテーターとなることの有用性を感じました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

特別支援に関わる専門性を生かしてもらったり、スキルアップを図ったりする取り組みが参考になりました。特別支援の対応や支援の仕方の引き出しを広げていくことは、担任の先生方の自己肯定感を高めることにもつながり、この取り組みがあることで、担任も一人で抱え込まないことにもつながっていると感じました。また、目的をもった懇談会についても参考になりました。児童生徒の目標に寄り添って声かけしていくことは、児童生徒にとって本当に心強いものになると感じました。ぜひ本町でも取り入れていきたいと感じました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

WISC については、担任が検査の結果を有効に活用して指導に生かすところまではできていない。全教員が、職員研修で検査の見方を学び児童の特性や困り感を正しく認識し、児童理解と教員の指導力の向上につなげていくことを実践していきたいと思いました。(可茂地区 小学校)

教頭がファシリテーターとしてケース会議の進行、調整することの大切さを実感いたしました。学校だけでは立ち行かない事案について、関係機関との連携により、途切れない横と縦の支援に繋げていくことが重要であることを学ばせていただきました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

通級と特支との連携は、とてもよいと思う。  
本校では、現状取り入れることは難しいのが残念である。(岐阜地区 小学校)

学校規模・市町の規模が違うものの、子どもの発達や子どもの生き方に悩みを抱く保護者がいることは同じである。こうした保護者や子ども自身に寄り添った教育をどのように整えていくかは同じように抱く課題である。岐阜市が行う取り組みは同様に実践しているが、本町も近隣であることから交流をし学ばせていただきたいと感じた。(岐阜地区 中学校)

特別支援学級の担任がもつ特別支援教育の知見を全職員に広めたり、通級指導教室といかに連携して発達に特性のある児童への支援をさらに行いたい。(岐阜地区 小学校)

特別な支援を必要とする児童に対して、他機関と連携した支援体制を作っていくことの大切さを改めて感じました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育は、もはやすべての教員が携わっていく分野となっています。ですから、知識に加えて書類作成、児童生徒対応、保護者対応など、あらゆる面での研修が必要だと考えています。特別支援コーディネーターも兼ねている教頭として、研修を計画的に位置付けていくことも重要だと考えています。そういう点から、大変貴重なご実践を学ぶことができました。今後に生かしてまいります。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒への対応については、最前線で児童生徒と接する担任の特別支援教育に関する専門性を高めることが大切であると思います。また、関係機関を活用することも有効な手立てであると思います。(岐阜地区 中学校)

特別な配慮を要する児童への有効な支援を行うために、今後益々職員研修は必要になってくると思われる。本校でも夏休みを利用して、支援学校の先生を招き研修を実施したが、ぜひ次回は、WISCの結果の見方について研修を実施したい。また、学級担任が一人で悩んだり抱え込んだりすることがないように、特コや特学担の授業参観に基づくアセスメントやケース会議を必要に応じて計画・実施できるような体制づくりを整備していきたい。(可茂地区 小学校)

今年度、本校も研修主事が職員にアンケートを取り、研修数項目を決定していきましたが、職員のスキルアップとして、「WISCって何？」という特支教育に関する専門性の向上を図る場の研修は、とても良いものだと感じました。特別な配慮を要する児童が多くなる半面、児童数の減少により単学級が多くなり、主任と一緒に進めていくということが少なくなり、経験年数の少ない職員はますます不安になっていると思います。そんな中、こういう研修こそ、時間を割いてでも必要な場の設定だなと感じました。(西濃地区 小学校)

教頭がファシリテーターとして、ケース会議の進行することは重要なことだと思います。事例が多い場合は、分担はすると思いますが、教頭で処理しきれぬのかという点は気になりました。岐阜地区はエール岐阜などの他機関が充実していると感じるので、そのような機関が他地区でも充実するとよいのではないかと思います。(東濃地区 小学校)

すべての子どもの発達をチーム学校として保証していこうとするチームワークの大切さを学びました。(東濃地区 小学校)

子どもの発達に関わって、特別な配慮を必要としている児童が増え、職員の多忙感の一つになっています。本校は小規模校ですが、配慮を必要としている児童が、たくさんあります。保護者との連携を密にとることで、なんとか子どもたちは落ち着いた生活を保っています。発表の中で、学ばせていただいた一つにWISC研修です。若い職員が増えている中で、用語の解説や検査結果の見方を研修に位置付けることは大切なことだと思います。また、目標設定型三者懇談会も参考になりました。実践して、子どもたちの自己肯定感の高まりを生み出せるとよいなあと思います。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

ケース会での教頭の役割がわかりました(西濃地区 小学校)

特別支援コーディネーターの力をどのように発揮してもらうのかよいか、大変勉強になった。WISC の読み取りと支援への生かし方は、是非取り入れてみたい。(岐阜地区 小学校)

一人一人がこれから生き抜くことができるよう、子ども自身が自分の姿を振り返り、何にどのように取り組むのかを工夫できるよう、目標設定型 3 者懇談会とされていることを学びました。(西濃地区 小学校)

教頭が、組織として対応するために、つながりを作ること。(西濃地区 小学校)

特別な支援が必要な児童への支援体制づくりの大切さを学びました。(飛騨地区 中学校)

学校として、よりきめ細やかな特別支援教育の推進のあり方が勉強になりました。(岐阜地区 中学校)

特別支援教育に関わって、教頭の果たす役割について勉強になった。(岐阜地区 小学校)

特別支援研修は、今後必要になると痛感しました。推進の仕方等大変参考になりました。(岐阜地区 小学校)

・専門用語の意味を学び直すことが具体的な支援のヒントになることを再認識しました。  
・教頭がファシリテーターとして職員の目的意識を高め、関係機関とのつながりを強めていくことの重要性を感じ、自分からもっと働きかけていかなければと思いを新たにしました。(東濃地区 中学校)

特別な配慮を要する児童生徒が増加していることを踏まえ、特別支援コーディネーターなどを生かして、特別支援教育の基礎基本となる研修会の位置付け、関係機関との連携の持ち方などの重要性を改めて実感しました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒は年々増加しており、どの学校でも対応が必要である。その中で、教頭が連携や調整の中心となって、各種機関や他の職員と関わっていくことが不可欠であることを改めて実感することができた。(美濃地区 小学校)

自校には、経験年数の浅い職員や特別支援教育に直接関わった経験がない職員が多く、特別支援教育を推進する上で必要となる知識、技能などの専門性の向上は自校の喫緊の課題です。支援体制づくりに向けた教頭としての働きかけは分かりやすく、参考にさせていただきたいと思いました。特に、医療機関との連携の際に活用する「ジョイントシート」は個の児童生徒をより深く理解し、支援することにつながります。今後、検討したいと思いました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育コーディネーターが授業参観して、支援の方法や方向性について助言することは、子どものためにも教師のためにもなる素晴らしい方法だと思いました。また、幼保小中の連携や、他機関との連携については、私も常に意識していきたいと改めて思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童の数が年々多くなり、保護者からの要望も具体になっていく中で、通常学級において何ができて、何ができないかを精選していかないと担任の負担が大きくなる一方。環境を整えていくことはもちろん大切だが、「人不足」という課題が大きく影響していると思う。(岐阜地区 小学校)

幼保小中の連携による途切れない支援体制の構築は大変重要なことである。まずは、保護者が進学先のそれぞれの学びの場を見学する場を設定することは必要である。それを特別支援教育コーディネーターだけに任せるのではなく、教頭も共に参画することで、より円滑に支援が引き継がれていくことを学んだ。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童の支援体制づくりのために、教頭が校内外の関係各所と連携するファシリテーターの役割が大切であることが分かった。(岐阜地区 中学校)

特別に支援を要する子に対して、教頭先生が特別支援コーディネーターとしての役割をもっている学校が多いということに驚いた。外部との連携も、教頭の果たす役割は大きいと改めて感じました。(岐阜地区 小学校)

教頭として、校内での連携調整、外部機関との連携調整を積極的に行っていかなければいけないと感じた。(岐阜地区 小学校)

月一度の課題についての実践交流、特別支援に関わって、教頭がファシリテーターとしてエース会議の進行や調整を行っている点は参考になった。目的が明確になっている三者懇談会は大変有効であると感じ、是非真似したいところだと思った。(東濃地区 小学校)

今後誰しもが特別の支援が必要であるという考えを教職員全員がもち、専門的な知識を得ていくために研修を仕組んでいくことが大切だと思いました。その研修は、時間はとられても、最終的には働き方改革に繋がっていくと思います。(岐阜地区 中学校)

組織立てて動くことの意味や教頭の役割の重要性を学んだ。(岐阜地区 小学校)

授業参観における、特別な配慮を要する児童の理解、学級内での個別対応の仕方を教頭が特別支援教育コーディネーターと連携を取りながら教頭が押し進めていくことの強みを痛感した。教頭はいろいろな機関や人とを単につなげるだけでなく、いかに有機的に、実のあるコーディネートができるかが勝負であると思う。(可茂地区 小学校)

WISC の検査結果の見方を身につけることは、特別支援教育においては重要なことと分かっていても、医者の見立てを聞くだけのことが多かったが、研修をし、自分で見るようになることと子供理解の向上につながるよい実践をされていると思った。(岐阜地区 小学校)

どの学校でも、多かれ少なかれ、教頭が中心となって子どもの発達を促していることがわかり、さらに頑張りたいと思った。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童が増えつつある中、教頭として果たさなければならない役割が大きいことを改めて実感しました。教頭が見通しをもってケース会のファシリテーターとなることで、よりよい支援につなげられると思いました。また、職員みんなで研修をし、理解を深めることや、役割分担をすることも大切だと思いました。(岐阜地区 小学校)

チーム学校として組織的な支援体制で児童の発達を支えるために、教頭として職員の役割を生かし、職員をつなぎ、協働するために働きかけること、また、その働きかけ方を学ぶことができました。(東濃地区 小学校)

学校ごとに課題があり、ケースバイケースであることを学んだ。状況を的確に捉え、意図的・計画的な支援を計画する必要性を感じた。(岐阜地区 小学校)

特別な配慮を要する児童生徒への理解は重要性を増しているなかで、研修等を通して全教職員が児童生徒理解を深めることが大事であると再認識しました。(西濃地区 小学校)

特別な支援を必要としている児童生徒は増えている。各担任が、知識を得ることが必要になる。その、知識がもてるよう、色々な視点から研修がありよいと思う。また、校内だけでなく、外部との連携を積極的に活用することで、繋がりができ、いざとゆうときに、相談にのってくれ対応も早くできるのだと思います。(可茂地区 小学校)